

平成27年4月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

社木調査

御岳山にお越しの方から、「木に番号が打ってあるのは何ですか」とよく質問されます。これは、武蔵御嶽神社で昭和56年から3年間にわたり行われた^{しゃぼくちようさ}社木調査の際付けられた番号です。神社の杉や檜は荘厳さを保ち、社殿修築の材料を産し、檜皮葺の屋根材を取るなど、その使用も江戸時代から厳格に管理されていた記録が残っています。



社木

滝本大銀杏^{おおいちろう}の左側787番の杉から、登山道にそって御岳ビジターセンター直下の「くろもん」道標の後ろ1番の杉まで、枯れて伐採した木もあり現在700本を下回ってしまいましたが、杉・桧の大木が「北御坂」といわれる御岳山への登山道にそびえています。この並木は江戸初期に御嶽神社への参道に沿って植えられたといわれ、御嶽神社からさらに男具那社^{おぐなしゃ}まで続いています。

昭和17年の社木台帳には、神社周辺に1358本、北御坂に878本が記録されています。その後昭和41年9月24日の26号台風で、神社周辺の大径木が一晩にしてなぎ倒され、現在のように社頭から関東平野が一望できるようになりました。昭和56年から行われた調査では、神社周辺1236本が記録されました。台風被害を受けた割には130本ほど減



くろもん1番

っただけでしたが、頂上に近い大木が倒れたためか、神社の様相は一変しました。この時の調査で、北御坂 787 本、男具那社 772 本、長尾平 128 本、天狗岩・綾広の滝 407 本、富士峰 435 本、大塚山 205 本と社有地の大径木 3970 本が調査記録されました。番号は神社の石段がはじまる手水舎裏の杉が 1 番、奥宮入り口の『天狗の腰掛け杉』が 1501 番など、番号プレートが木に付けられ、合わせて地図にも番号が記され、台帳に木の種類・目通りの直径などが記録されました。北御坂は別に 1～787 番のプレートが付けられましたので、山上には同じ番号の打たれた木もあります。

しかし、プレートが欠落したり、木が枯れて伐採されたりしたため、平成 16 年に御岳ビジターセンターで再調査が行われました。この時は、北御坂と長尾平から奥宮まで登山道に沿った大径木の調査で、木の種類・目通りのほか、木の状態が記録されました。その調査では昭和 56 年当時より、北御坂は立ち枯れも含め 60 本あまり、奥宮までは 20 本減っていました。

御岳山は昭和 41 年以降も、昭和 54 年春一番で西側大杉が倒れ、旧本殿が倒壊。平成 8 年の台風では北側大杉が倒れ、旧東照社門や本殿が壊れるなど、大風や落雷などで度々被害が出ています。そのためか、神代けやきを除き樹齢は古くても 400 年くらいですが、それでも江戸から明治・大正・昭和・平成と生き抜いた大木は、様々な姿を見せてくれます。

(文責 須崎 直洋)